

動物飼育 Q & A

<Q> 野中保育園での園生活を始めて知り、びっくりしました。こんなにのびのび育てているところが日本にあるとは・・・その園で育った子ども達はその後の成長にどのような影響を与えているのかを知りたいです。

<A> (塩川) 卒園児についてお知らせいたします。

野中保育園の卒園児の動向について、私たちは小学校の先生や中学、高校の先生からも常に様子を聞いております。

実は、野中保育園の保護者の職業には、他の保育園幼稚園に比べて学校の先生が多いからです。毎年その傾向にありますので、日常的に情報を整理しております。

野中保育園を利用された学校の先生の保護者から口コミで野中保育園の評判を聞いて入園してくるからです。

卒園児約3000名、56年目の伝統が卒園児の行く末を証明しております。

医者になった子、歯科医師になった子、オリンピック選手になった子、甲子園球児になった子、共同通信のトップ新聞記者になった子、プロのダンスの先生になった子、弁理士になった子、上級職試験を通して公務員になった子、難関大学の大学院を卒業してドイツのデュッセルドルフで活躍している子、地域の消防団長になった子、富士宮市浅間大社を支える青年会役員になった子、静岡県警察官になった子、富士宮市で食堂経営する子、富士宮市農協で活躍する子、富士宮市の信用金庫・銀行で活躍する子、卒園児で野中保育園の保育士になった子、卒園児で、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生になった子多数。

現在、野中保育園と大中里保育園（同一法人）の職員・嘱託で卒園児は、

専任・・・保育士、事務員、用務員

嘱託・・・歯科医師、

保護者の職業・・・富士宮市市議、静岡県県議員、医師 等。

昔はよく「卒園児は怎么样了か」という質問に答えるために、一生懸命情報を収集していました。が、卒園の追跡調査を通して、このように述べると自慢話のようになりますので昨今では一切やめることにしております。

まるで紅白歌合戦のようになって勝ち組の子、エリートの子を目指している教育のよう、と思われたくないからです。

昭和28年創立ですからその年に5歳児で卒園した子は60歳です。約3000人の卒園児

がありとあらゆる職業にいるのは当然のことです。卒園児や卒園しての追跡調査はこの園・学校でやっても同様に自慢話になるのではないかと思います。

しかし、「確かなこと」は、野中保育園の大自然の中で思いっきり遊び、豊富な生活経験を積んだ『大地保育』の卒園児の小学校・中学校・高校の先生の評判はとても良いです。

・先生の話をよく聞く・何事にも興味を持ち目を輝かせて取り組む・集中力がある・自分の意見をはっきりと述べる・体力がある・やさしさがある・助け合ったり協力し合うことが上手である・保護者が素直に先生の意見を聞き協力的である・野中保育を選んで入園させる保護者には、豚が園庭を歩いていても驚かない人が多い・保護者も動物飼育や植物栽培の保育をよく理解し、お世話をよく手伝う・『大地保育の理念を信じて』入園させる親は決まって良い意味の教育熱心である・・・放任ではない「真の自由教育について」取り組む教育熱心な保護者がもともと多い。

というのが保護者である小・中・高の先生方の感想です。

<Q> チャボが庭でミミズや虫を食べるけど、食物連鎖を子どもにどのように教えたらよいか？

<A> チャボがミミズを食べることは、人間が動物や魚の肉を食べることと同じに自然なことです。幼児には、食物連鎖など難しいことを言わずに、「チャボがご馳走にありつけて、良かったね。栄養になるんだよ」と伝えて、人の栄養にも思いをはせさせれば良いのだと思います。つまり、この時点でその人にとってどっちが重要かという点を大事にして、伝えれば良いと思います。で、時には、「ミミズさんも大変だね」との問いかけも良いと思いますが、あまりにミミズに焦点をあててしまうと、重大に捉えすぎてしまうでしょう。

子どもが、小学校中学年になったら、ミミズが落下して朽ちた葉をたべて、糞として土を増やすところから、大自然の食物連鎖を大きく捉えて、体系的に伝えたらいかでしょうか？

<Q> 鳥インフルエンザ関連(プールに鴨が来るけど大丈夫か)

<A> 大丈夫です。

鴨から鶏類に鳥インフルエンザウィルスが感染すると、高病原性に変異することがあるのですが、鴨の泳いでいるプールや川

で人が遊んでも影響はありません。

大事なことは、野生の鴨など水鳥が泳いでいる川や池の水と、飼育している鶏類を接触させないことです。

昨年、宮崎県で3つの養鶏所で発生した鳥インフルエンザ感染は、水鳥の棲息していた川の水を養鶏場に引き込んでいたのが原因だったと考えられています。

ウィルスは同じ種類間で感染する性質ですので、人から人に移るのが本当は問題なんです。

プールの鴨は影響がなくても、それより人が病原である「プール熱感染」がよく見られることからもお分かりでしょう。

<Q>チャボの卵を食べても良いか？

<A>まったく大丈夫です。お世話の賜物として、食べさせてください。売っている卵と同じだと。ただし普通の卵もそうですが、新鮮なうち（産卵後1週間以内）に食べてください。

なお、卵の殻には空気を通す孔があり、洗うと殻についた糞などの細菌が水と一緒に中に入りますので、汚れは乾いた紙や布で拭うにとどめて、洗うのは殻を割る直前にしてください。

心配なら、その日のうちに食べるように、あるいは火を通して食べるように伝えてください。

<Q>最近チャボの産卵が減ったのですが
<A>産卵用に改良されたレグホンなどの家畜とことなり、愛玩用に野生種から作られたチャボは、野生の姿を良く残しており、季節で卵を産みます。

生後半年くらいから産卵をはじめ、10数個生み貯めたところで、抱卵します。著者の庭で飼っていたチャボは、12歳まで毎年数回産卵のシーズンを繰り返しましたが、年をとれば産卵数、孵化率ともに減少していきます。

年齢以外の要因として、餌の蛋白質やカルシウムなどが少なく産卵できない場合もあります。

産卵期のメスには、産卵鶏用の餌（農協）を与えてください。野草・野菜や虫を餌に加えると、黄身の濃い美味しい卵を産みます。

<Q>モルモットは校庭で飼えますか？

また、飼育舎にネズミがくるけど、動物に病気をうつさないでしょうか？

<A>飼育舎にるのが、ウサギとチャボならば、ネズミの持っている病気はうつりません。種類が違うのです。ただし、モルモットやハムスターはネズミと同じゲッ歯類ですので、病原を共有します。

ですから、モルモットは飼育舎ではなく、

校舎内でケースにに入れて飼ってください。

また、モルモットは暑さに弱い動物ですから、校舎内で、温度管理を考えてやらないといけません。

暑さ寒さのちょっとした心遣いは面倒に思えるかもしれませんが、これが子ども達に生きているものの命の基本知識とそれを守る方法を伝えます。きっと、このような気遣いを備えたら、将来、自分の子どもを持ったとき自動車内に放置して熱中症で失くすようなことはしないでしょう。

<Q>沖縄でカタツムリの病気が人に被害を与えたというが、温暖化だから本土も心配ではないか？

<A>このカタツムリはアフリカマイマイといって、殻の直径が7～8cm、殻の高さ20cmにもなる世界最大級の陸に棲む巻貝です。これが中間宿主になって広東住血線虫という寄生虫を人に感染させ、好酸球性髄膜脳炎を引き起こし、死に至らせることもあります。触ったり、這った跡に触れる等してもこの寄生虫が感染する危険があり、大変注意を要する生物です。

このマイマイは、もともと日本にいませんでしたが、1932年以降、食料として台湾経由で導入され養殖されていたものが、沖縄戦を機に野に逃げ出し繁殖したものです。

日本では植物防疫法により有害動物指定を受けて、分布地からの生体の持ち込みは原則禁止されていますが、世界各国でも本種の生体の持ち込みは禁止されています。

また、外来生物法においても要注意外来生物に指定されており、世界の侵略的外来種ワースト100（IUCN, 2000）選定種になっています。

日本では、沖縄、奄美大島、小笠原などにもちこまれ、沖縄や奄美大島では一時は道路を埋め尽くすほどの数が認められていました。農産物やその島固有の昆虫や巻貝を食べて、甚大な被害も与えています。

つまりこのカタツムリを本土に持ち込まないこないことが肝心です。最近、テレビで珍しい生き物を紹介して、「かわいい～」など出演者に発言させ、この種類の購買欲望を煽っていますが、外国で野生動物を捕獲して売る可能性が大きく、未知の病原の可能性が否定できません。また、野生動物は幼いときは扱いやすくても、成獣になれば、人に噛み付いてきます。それで飼いきれずに野に放せば、繁殖して様々な被害を与えます。行政が莫大な手間と費用をかけても、なかなか撲滅はできません。「珍獣を欲しがらないでください」と環境省と厚生労働省は言ってます。